

「安心社会」の 実現へ向けて行動しよう!

連合「第19回定期大会」&
「ジェンダー平等推進中央集会」に参加

生保労連は、10月に開催された連合「第19回定期大会」「ジェンダー平等推進中央集会」に参加し、「働くことを軸とする安心社会」実現に向けて取り組むことを確認しました。

賃上げの成果を礎に、 安心社会へ「アクション！」



連合は10月7～8日、「安心社会へ果敢にアクション！」をスローガンに「第19回定期大会」を開催しました。

芳野会長は、2年連続5%超の賃上げの成果等を報告しつつ、「恩恵が行き届かない現実もある」「次期春闘は正念場だ」と力強く訴えました。第19期の最大の課題は「組織拡大である」とし、「心理的安全性のある職場づくりと、ジェンダー平等・多様性推進を一体的に進化させていく」と決意を述べました。

来賓の石破首相、福岡厚労相、各党代表からは「物価上昇に負けない賃上げ」「格差是正」への決意が語られ、労働組合との連携の重要性を強調しました。

「2026～2027年度運動方針」では、組織拡大・ジェンダー平等・多様性推進を柱に運動を展開し、「働くことを軸とする安心社会」の実現をめざす等の方針を確認しました。役員には、再選出の芳野会長をはじめ、生保労連からは堀委員長が中央執行委員に、阪本副委員長が女性中央執行委員に選出されるなど、新役員体制で新たな年度をスタートさせました。

ジェンダー平等の実現は 「不可欠」な運動の柱



連合は10月24日、「2025連合ジェンダー平等推進中央集会」を開催しました。

芳野会長は、「先輩方の奮闘により、女性の働き方、生き方は、着実に変化してきた」「私たちはこれまでの歴史を振り返り、未来へとバトンをつなげていかなければならない」と挨拶されました。

基調提起では、連合から男女間賃金格差や管理職比率など日本の現状と課題が示され、「ジェンダー平等推進計画」フェーズ2の取組みが報告されました。

基調講演では、早稲田大学の朝倉むつ子名誉教授より、均等法制定の歴史、ジェンダー平等が進まない背景、今後の課題等について述べられました。

続くディスカッションでは、均等法制定前後の単組・産別の事例や体験談が共有され、これまでの運動を振り返り、さらに未来へとつなげるための議論が展開されました。

最後に、「労働運動への『理解・共感・参加』の輪を広げていくためには、ジェンダー平等の実現は必要不可欠である」「連合、構成組織が一体となって取り組んでいく」と、参加者全員で確認し合いました。